

インターバンクの声（2015年5月25日）

先月以降のドル円相場では、個別の相場材料に対する短時間での変化が70銭を超えて来ると、およそ最大級の反応であると見做すことが出来そうだ。先週末の米4月消費者物価指数の発表後、コア指数が2013年1月以来の高い伸び率を示し120円80銭台から121円50銭台に急上昇。およそ70銭ほどのドル上昇反応となり、15日に米鉱工業生産やミシガン大学消費者信頼感など、同日に発表された米経済指標が軒並み弱い結果となってドルが70銭ほど下げて以来の短時間での大きい振れ幅となった。月曜日がメモリアル・デーのため一日長くなった週末に備えるため早めにポジションを整理する動きが重なったのかも知れないが、コア指数の伸びにしても前月と同じだったことを考えると、やや想定外のドル買いの勢いにも感じられた。金曜日のニューヨーク市場は、結果的にこの大きな変動だけで終わってしまったが、この数時間後のイエレン米連邦準備理事会（FRB）議長の年内の利上げの可能性を示唆した発言に対する反応がほとんど無かったのも意外だった。多くの人たちが、昼過ぎには帰り支度に取り掛かり始めていたのだろう。週明けの東京市場では、日経平均の動向などは多少気になるが、本格的な再始動は明日からになりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。